

第8章

景観重要建造物及び 景観重要樹木の指定の方針

- 1 基本的な考え方
- 2 景観重要建造物の指定の方針
- 3 景観重要樹木の指定の方針



第8章 景観重要建造物及び 景観重要樹木の指定の方針

1 基本的な考え方

市内に点在する景観資源は、良好な景観を形成する上で重要な要素です。その中で、本市特有の歴史的・文化的建造物や長い年月をかけて育まれてきた樹木等は、本市の歴史を物語り、地域のシンボルとして親しまれている景観資源であり、塩竈らしい個性的で魅力的な景観づくりの核として重要な役割を果たすものです。

そのため、建造物や樹木のうち特に重要なものについては、景観重要建造物や景観重要樹木に指定し、適切な管理・保全を図っていきます。なお、指定された建造物・樹木については、現状変更に関して許可が必要になります。

2 景観重要建造物の指定の方針

市民に親しまれている建築物などは、本市の景観形成上重要です。このため、地域の自然、歴史、文化等からみて一定の価値を有し、道路や公共の場所から誰もが容易に眺めることができる建造物について、その実態を把握し、所有者の意見を聴いたうえで、次に示す指定方針に基づき景観重要建造物に指定します。

ただし、文化財保護法により既に登録有形文化財等である建造物や、県及び市条例により指定有形文化財である建造物については、原則対象外とします。

【景観重要建造物の指定方針】

道路や公共の場所から誰もが容易に眺めることができる建造物で、下記のいずれかに該当するものとします。

- ①シンボル性
建築物等として美観に優れており、シンボル性が高いこと
- ②歴史文化性
外観等が伝統的な形態や素材によって築造されており、歴史的又は文化的に価値が高いと認められること
- ③地域性
地域に調和した象徴的な存在であるなど、市民に親しまれており、地域の景観を特徴付けていること
- ④コミュニティ性
地域に広く親しまれており、地域の財産として守る意思のもとに、住民等による維持・管理が行われていること

北浜地区
昭和初期

現在



【例 塩釜文化景観賞受賞建造物等】

No	名称	概要	写真
建造物 ①	佐浦社屋 及び酒蔵 (平成5年受賞)	江戸時代の享保9年(1723)に鹽竈神社の御神酒酒屋として創業。 築約150年ほどの酒蔵「享保蔵」や、大正期に建てられた「大正蔵(岩蔵)」、町屋形式の店舗などの歴史的建造物があります。 なお、新社屋の一部に、江戸期の「鹽竈神社別当法蓮寺向拜」が移築保存されています。	
建造物 ②	荻原醸造店 (平成5年受賞)	明治21年に初代店主が建物を買取り、味噌・醤油店を創業しました。建物自体は江戸時代の後期に建てられたもので、築160年ほどになります。	
建造物 ③	太田與八郎商店 (平成5年受賞)	江戸時代の末期の弘化2年(1845)に味噌醤油屋として創業しました。店舗付居宅は、昭和4年に釘を使わずに建てられました。工場は大正14年に建てられ、モダニズム建築の影響を受けています。	
建造物 ④	旧亀井邸	大正13年に商社カメイ初代社長の邸宅として建てられた「和洋併置式住宅」様式の建物です。日本と欧米的なデザインが融合した意匠を作り出しており、他に類例を見ない建物です。	

市民の声

興味を持った方たちが、地元を愛して活動していけるようにつなげてほしいと思います！



まる
すし磨



「大～きいな！」



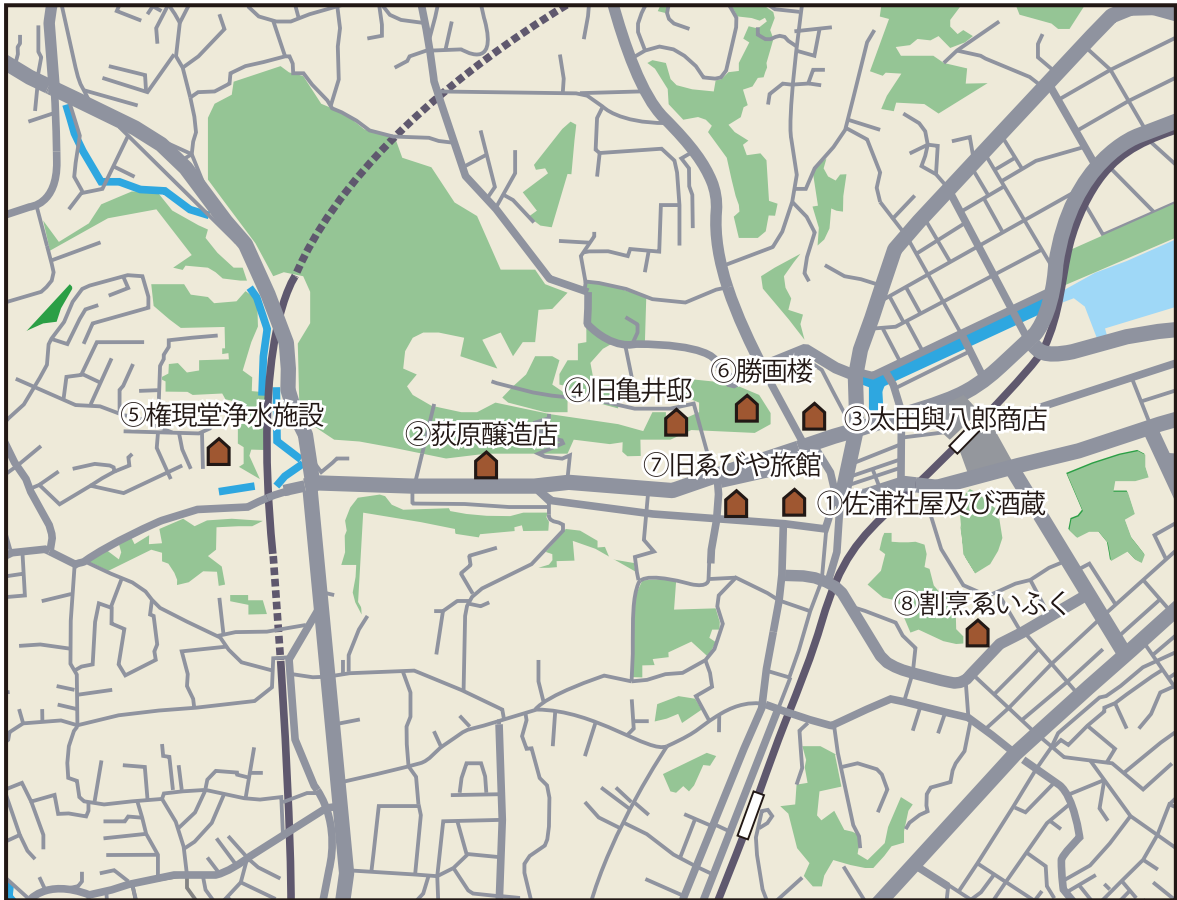
No	名称	概要	写真
建造物 ⑤	権現堂浄水施設	明治23年に市では慢性的な水不足を解消するため、上水道工事に着手し、本施設は明治45年に近代的水道施設として完成しました。本市水道創設期を物語る建造物となっています。	
建造物 ⑥	勝画楼	鹽竈神社別当法蓮寺の書院跡であり、明治9年6月明治天皇の東北巡幸の際の行在所となりました。勝画楼は「面にもまさる楼」の意をもって、仙台藩5代藩主伊達吉村が命名したと言われています。	
建造物 ⑦	旧糸びや旅館	明治初期に建てられた当地に現存するほぼ唯一の木造三階建ての建物です。建物内部は旅籠・小宿貸座敷として使われた当時の様子を留めており、各部屋により様式が異なるなど、希少性のある建物です。	
建造物 ⑧	割烹糸いふく (平成7年受賞)	昭和初期に建てられた趣が深く情緒に満ちた歴史性の高い建物となっており、割烹店として営業しています。	

塩釜文化景観賞

塩釜商工会議所が設けた表彰制度。塩竈の歴史と伝統、風土に調和した都市景観を作り出している建造物、眺め、イベントなどを表彰することにより、まちなみの環境の向上やまちづくりに対する市民意識を高めることを目的に平成6～7年に実施されました。



【塩釜文化景観賞受賞建造物等位置図】



※旧亀井邸に再現された懐かしい時代のまちなみ模型

- ・塩竈が港町として躍進していた昭和初期の懐かしい街並みを、NPO 団体が模型で再現し、旧亀井邸に展示しています。



宮町地区をイメージした部分



海岸通地区をイメージした部分

市民の声

イベントを多くして
学生や子どもたちを
巻き込んだまちづく
りをするのが大事
だと思います！



「とっておきの笑顔」



3 景観重要樹木の指定の方針

市民に親しまれている樹木や旧道の並木などは、本市の景観形成上重要です。

このため、地域の自然、歴史、文化等から一定の価値を有し、道路や公共の場所から誰もが容易に眺めることができる樹木について、その実態を把握し、所有者の意見を聴いたうえで、次に示す指定方針に基づき景観重要樹木に指定します。

ただし、文化財保護法により既に登録記念物等である樹木や、県及び市条例により指定天然記念物等である樹木については、原則対象外とします。

【景観重要建造物の指定方針】

道路や公共の場所から誰もが容易に眺めることができる樹木で、下記のいずれかに該当するものとします。

①シンボル性

樹形や樹高など美観が優れており、シンボル性が高いこと

②歴史文化性

歴史文化資源と一体的にある樹木等で、古木・名木等とされており、歴史的又は文化的に価値が高いと認められること

③地域性

地域の自然・歴史・生活に調和して、市民に親しまれており、地域の景観を特徴付けていること

④コミュニティ性

地域に広く親しまれており、地域の財産として守る意思のもとに、住民等による維持・管理が行われていること

【市内に点在する歴史的樹木位置図】



港町地区
震災直後

現在



【例 市内に点在する歴史的樹木】

No	名称	概要	写真
樹木 ①	吉津のカヤの木	江戸時代、山火事が発生し、火の手から、このカヤの木が防いでくれたという言い伝えがあり、御神木として大切に守られてきました。また、伐採や大枝の切除を行おうとすると、その人に災いが起こるといった逸話もあります。	
樹木 ②	旧松島海道 の松並木	江戸時代、仙台藩松山城主茂庭周防忠元が、宝暦11年（1761）、利府赤沼から鹽竈神社の七曲坂へ至る松島海道を整備しました。その名残である松並木が塩釜ガス体育館からゴルフ場にかけて残されています。	
樹木 ③	月見ヶ丘往還道 の松並木	江戸時代、鹽竈神社の宮人三十家のうち十八家が利府加瀬に住んでおり、神社と日々往復した道は、往還道（野中大道）と呼ばれていました。現在もその道筋であった月見ヶ丘小学校周辺には、往事の松並木が残されています。	
樹木 ④	菊池助治 殉道の碑の桜	大正13年の冬、玉川堤の氷が割れて溺れた子供を、通りかかった青年が救助しようとして二人とも溺死した痛ましい出来事がありました。その慰霊碑の周辺には、桜が植えられ、遺族が今も慰霊祭を行っています。	
樹木 ⑤	獅子崎の松林	宮城県仙台地方振興事務所水産漁港部のある獅子崎には、アカマツ林が残されています。文化7年（1810）に建立された獅子崎の碑とともに、かつて岬であったことを物語る貴重な樹木となっています。	



景観コラム『景観十年、風景百年、風土千年』

銀河鉄道が走る「塩竈の都市景観」～仙石線の高架化～

南町付近の仙石線高架橋が不思議な形をしていることをご存じですか。

宮城電気鉄道は、大正14年に仙台～西塩釜間が開通(昭和3年石巻まで全線開通、今の仙石線)し、明治20年開通の塩釜線(上野～塩釜)とともに、本市の発展に大きく貢献しました。

しかし、この二つの鉄道の線路により中心市街地が東西に分断され、さらに自動車の増加により激しい交通渋滞が発生しました。

そこで昭和40年に仙石線の高架複線化が構想され、昭和50年から海寄りに大きくルートを変

更して西塩釜～東塩釜間で高架複線化工事が始まりました。昭和56年11月1日に開通した仙石線からは、塩釜港や浦戸の島々を望むことができるようになりました。

なお、南町の高架橋の不思議な形は、将来的に塩釜線も高架で仙石線に乗り入れ、港や魚市場に入線できるようにあらかじめ用意された接続用の橋台です。当線は貨物の減少から平成6年にその役目を終え、計画は幻となりました。

夜、マリゲート塩釜から港を眺めると、仙石線がまるで銀河鉄道のように走り、ロマンあふれる塩釜の都市景観に出会うことができるでしょう。

【参考文献：塩釜の歴史】



左)昭和52年ころの南町付近
右)塩釜線が高架で仙石線に乗り入れできるように準備された橋台(南町付近)

問 都市計画課まちづくり推進係
☎364-2510

広報しおがま平成28年2月号掲載

景観コラム『景観十年、風景百年、風土千年』

市民がつくる新たな「塩釜の都市景観」

これまで本市の歴史を振り返りながら都市景観について紹介してきましたが、自然景観や歴史ある建物を残していくためには市民の皆さんの協力が重要です。

そのひとつとして、1月15日にコミュニティカフェとして御釜神社向かいにオープンした「旧糸びや旅館(元松亀園)」があります。この建物は、明治初期に旅籠(はたご)として建てられ、3階の天井には桜の絵が残る貴重な歴史的建造物です。東日本大震災の津波被害で解体する予定でしたが、NPO団体が保存と活用に取り組んでおり、新たな観光スポットとして期待が高まっています。

問 都市計画課まちづくり推進係
☎364-2510

多くの方々からご意見をいただいて策定している景観計画でも、市民と市民団体、事業者、行政の役割を掲げていきます。塩釜の長い歴史の中で培ってきたものを、景観資源として生かせるように考え、次の世代につなげていきましょう。

「景観コラム」は今回が最終回です。今後もさまざまな機会、景観計画をお知らせしていきます。



▲おしゃれなコミュニティカフェとして生まれ変わった「旧糸びや旅館」

広報しおがま平成28年3月号掲載